「エコ・ファーストの約束」
の進捗状況について
2009

株式会社タケエイ

はじめに・・・

当社は、環境省により創設された「エコ・ファースト制度」（詳しくは：http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/index.html ）にもとづき、産業廃棄物処理業界における第１号として、「エコ・ファーストの約束」を宣言いたしました（2008 年 11 月 11 日）。

その後の進捗状況につきまして、ここに公表いたします（2008 年度実績ベース）。

エコ・ファーストの約束

～環境先進企業として地球環境保全の取組～

環境大臣 斉藤 鉄夫 殿

平成20年11月11日

株式会社タケエイ
代表取締役社長 三本 守

1 建設廃棄物のリデュース・リユース・リサイクルを積極的に推進します。

- 関連法規（廃棄物処理法、建設リサイクル法、循環型社会形成推進基本法等）に基づき、廃棄物の適正処理および再資源化、特に、建設廃棄物に関する3Rを適正かつ積極的に推進します。
- 2004年度より開始したお客様への分別排出支援サービスについて、今後とも先駆的な規模と質において一層の拡充を図るため、年間の延訪問数6000回、新規支援先100件、排出現場での平均分別率65%以上を確保することで、リサイクルの推進及び廃棄物のリデュース・リユースに貢献いたします。内容としては、分別排出支援のためのツール開発、排出量予測及び実績管理支援、分別デモンストレーション、現場での分別教育支援、工期毎の分別コンサルティング（発生抑制、ゼロエミッション計画）、その他の有用な情報提供を充実いたします。
- 排出状況に応じた最適な車両等（ダンプ車、コンテナ車、クレーン車、分別容器）を提供することにより、分別排出をサポートし、円滑なリサイクルを促進します。
- 主要な取扱品目である建設混合廃棄物については、近年、全国のリサイクル率が9～36%で推移していますが、グループ全体として、解体工事や中間処理施設から排出される性状が細かく際立ってリサイクルが困難な混合廃棄物も対象に入れたリサイクル率向上に取組み、最先端の技術を導入した機械技術を活用し、2012年までにリサイクル率90%以上を目指します。
- また、廃石膏ボードについては、単品リサイクル施設を活用し、2012年までにグループ全体の受入れ量を2007年比で50%増として一層のリサイクルを推進します。

2 循環型社会形成に向けた取組を積極的に推進します。

- 排出事業者、処理業者、再資源化品利用者（製品・素材メーカー）等の関係各位による連携スキームを構築し、均一な品質と安定したロットの再資源化品を市場供給することで、廃棄物の循環的資源利用の推進を目指します。
- リサイクル専業の単品製造工場の整備等に努めることで、グループ全体の再資源化品の扱量を、重量ベースで、2012年までに、2007年比で30%増を目指します。

3 低炭素社会に向けた取組を積極的に推進します。

- 廃棄物の収集運搬サービスにおいて、物流拠点の検討、アイドリングストップの徹底、低公害車導入の推進等を実行し、運搬効率の向上を図ることで、廃棄物回収件数1件当りのCO_2排出量を、2012年までに、2007年比で5%削減します。
- 廃棄物の運搬から、処理および再資源化までの一連のサービスにおける総CO_2排出量を把握し、モーダルシフトや、バイオマス発電利用先への優先搬出等のサービスを提供することで、搬出重量当たりのCO_2排出量を、2012年までに、2007年比で5%削減します。
- オフィス内でのクールビズ、ウォームビズを実施し、事業活動に伴う燃料消費量、電気使用量を把握の上、各部門毎の削減に努め、省エネルギー化を徹底します。

株式会社タケエイは、上記取組の進捗状況を確認し、
その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

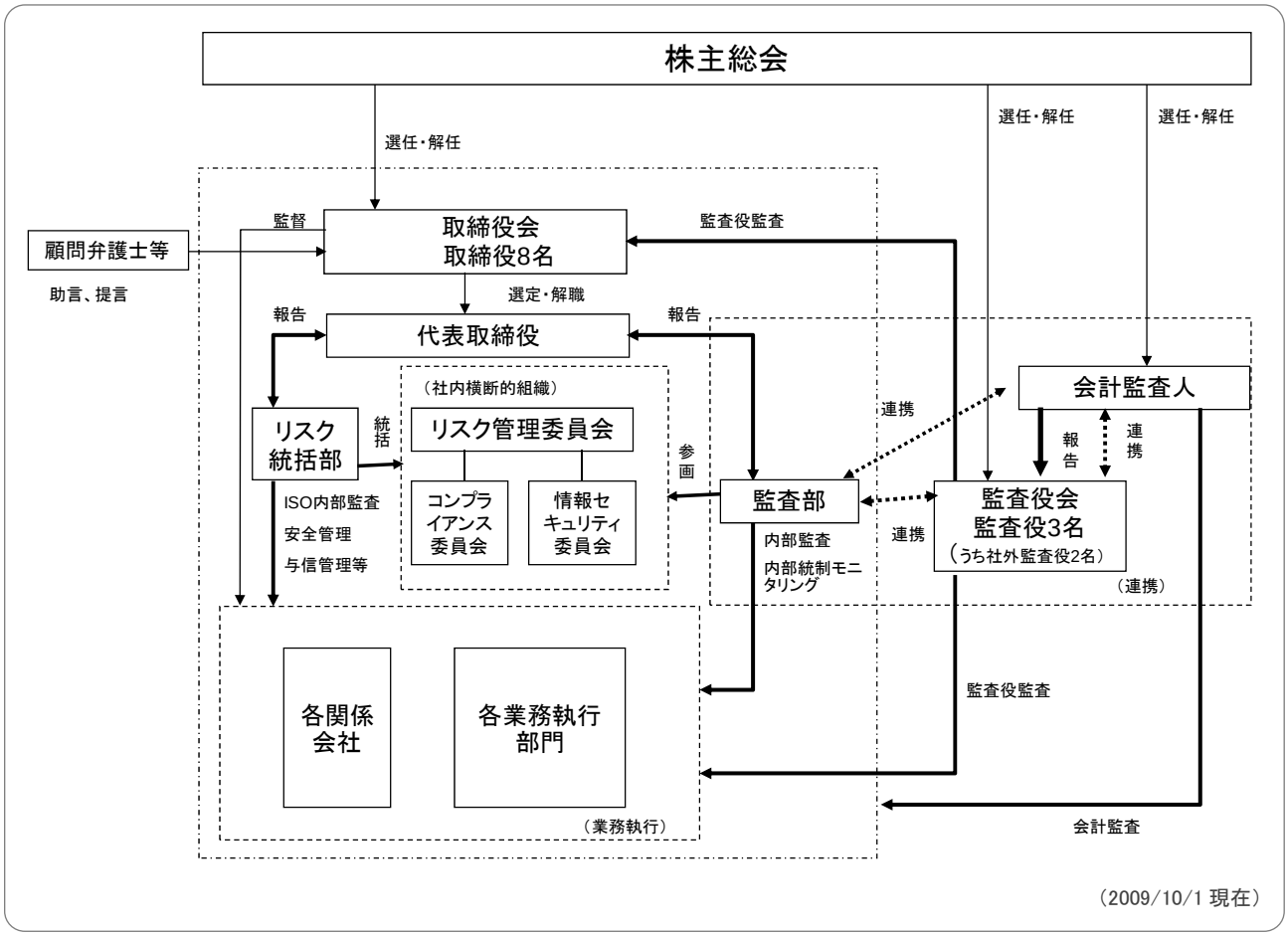
1. 建設リサイクル推進について

① コーポレートガバナンス強化を通じたリサイクル推進

当社は、健全な経営の推進と社会的信頼に十分に応えるためにコーポレート･ガバナンスを重要な経営課題として位置付けております。中でも、事業活動に係る遵法を最重要視するのは当然のこととして、一層の積極的対応を図っております。

近年の動向としては、当社の事業に深く関係する「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」など各産業、素材別のリサイクル関係法令の整備により、廃棄物の再生資源としての循環的利用、環境負荷の低減に対する社会的ニーズが高まっております。当社グループは、このような法規制強化の動向をむしろビジネスチャンスとして、廃棄物の処理及び再資源化事業に積極的に投資を行っております。

＜参考資料＞ 1　　業務執行、監視及び内部統制の仕組について



（2009/10/1 現在）

＜参考資料＞ 2　　許可一覧の情報

- 2009/10/1 現在　　巻末補足資料（P19-21）をご覧ください。
- 直近の情報　　http://www.takeei.co.jp/profile/no.html

＜参考資料＞ 3　教育研修、資格取得の状況

- 2009/4/30 現在　　巻末補足資料（P22-23）をご覧ください（原則年 1 回更新）。
- 直近の情報　　産廃ネット(タケエイ)　http://www2.sanpainet.or.jp/
  - ↳ 社内組織体制
    - ↳ 社内組織図

② 分別支援サービス

当社では、2004 年度に、建設現場における廃棄物の分別排出を促進しリサイクル率の向上を目的とする支援専門部署として「分別支援チーム」を設立しました。

以来、職長会や朝礼等の機会を使い、現場のご担当者様や場内作業者の方に対し、分別推進の啓発活動として、分別教育や分別デモンストレーション、或いは分別看板やスローガンの掲示などを実施しております。また工期に応じた分別コンサルティングや排出量予測と実績管理、竣工時の総括などの支援も行ってまいりました。その活動を通じて得た現場での取り組み方につきまして、2007 年 9 月に「めざせ　ゼロエミッション！」（大成出版社刊）と題した冊子も出版するに至っております。

2008 年度の目標は、

- 延べ訪問件数：6,000 件/年
- 新規支援現場数：100 件
- 支援現場平均分別率：65%以上

でしたが、実績は参考資料の通り、全て達成できました。

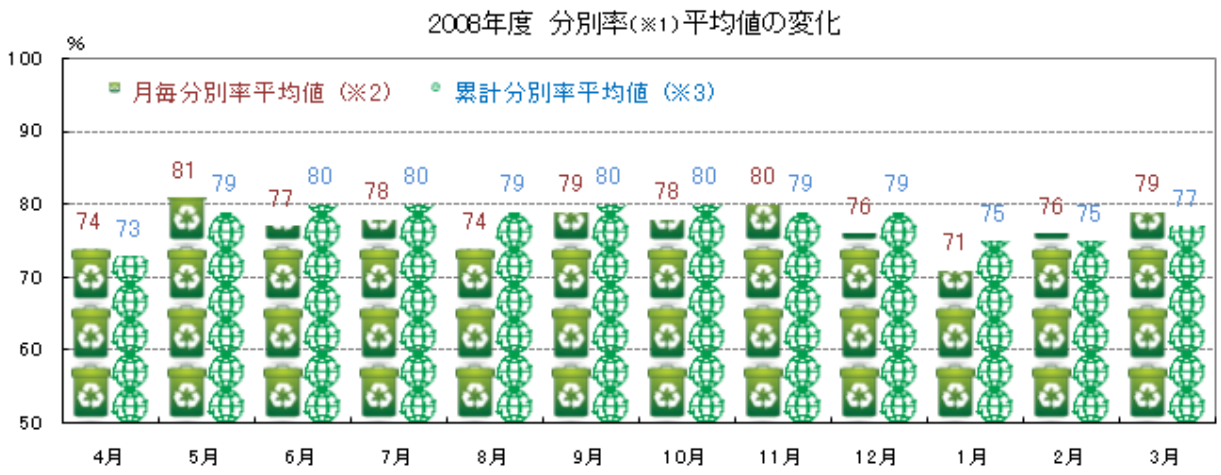
2009 年度からは従来の「分別支援チーム」を発展的に解消し、各営業担当者全員で分別支援を行える体制にシフトすることで、更に多くの現場で分別推進活動が進むよう支援してまいります。

＜参考資料＞ 4　2008 年度　現場支援訪問データ

内　容	エ コ ファースト 目標数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	目標比	達成率
訪問回数	6,000	383	395	394	554	507	508	564	581	600	603	587	590	6,266	266	104%
訪問現場数		98	94	95	96	89	84	93	98	111	134	127	118	1,237		
新規支援現場数	100	9	4	8	11	2	3	9	11	19	38	8	12	134	34	134%

※訪問回数：　その月に現場支援を目的として訪問した延べ人数
※訪問現場数：　その月に現場支援を行った現場数
※新規支援現場数：その月より新たに支援を開始した現場数

＜参考資料＞ 5　支援現場における分別率の変化



《データ集計方法》
※1　分別率：　支援対象現場の「(月間総排出量－混合廃棄物排出量）÷月間総排出量×100」
※2　月別分別率平均値：　各月の支援対象現場の「分別率」の合計÷支援対象現場数
※3　累計分別率平均値：　支援対象現場でのその月までの累計（工事開始から）分別率÷支援対象現場数

③ 豊富な収集運搬メニュー（車種、容器）によるリサイクル推進

当社が行っている収集・運搬業務は、主に首都圏における建設現場から排出される建設系産業廃棄物を主要な扱い対象とし、その収集及び中間処理工場への運搬を行っております。建設廃棄物は、工期により限定された期間に、散在する建設現場毎、多種多様な品目において、排出される特徴を有しております。

当社は、『小口巡回分別回収システム※』を整備することで、顧客のリサイクル推進への貢献を目指しております。

（※詳しくは：http://www.takeei.co.jp/solution/jyunkai.html ）

＜参考資料＞ 6　保有車両台数

株式会社タケエイの収集運搬車両台数

- 2009/9/30 現在

車種	台数
大型コンテナ車	7
2tコンテナ車	65
2tダンプ車	20
3tクレーン車	19
4tクレーン車	6
4tコンテナ車	43
4tダンプコンテナ車	83
大型トレーラー	1
産廃パッカー車	2
増tクレーン車	19
大型平ダンプ車	2
一廃パッカー車	8
合計	275

- 直近の情報　産廃ネット(タケエイ)　http://www2.sanpainet.or.jp/
  - ↳ 施設及び処理の状況（収集運搬業者）
    - ↳ 運搬車両ごとの車両形式、規模・能力（積載量等）

※車種及び容器のサイズについては、以下のリンク先をご参照下さい。
http://www.takeei.co.jp/services/unpan_2.html

④　建設混合廃棄物のリサイクル率

当社グループは、川崎リサイクルセンター、四街道リサイクルセンター、株式会社リサイクル・ピア※東京エコタウン工場の３つの拠点工場において、建設工事や解体工事等から発生する混合産業廃棄物を中心に、受入・処理・リサイクルを行っています。一般的に建設混合廃棄物は、様々な品目が混在している状態や複合状態で排出されることが多く、リサイクルが難しいとされています。これらの建設混合廃棄物をリサイクルするために、各種の機械選別設備や再生資源化設備を導入しております。

建設混合廃棄物は、近年排出現場での分別排出が推進されていることで発生量（受入量）は減少していますが、排出現場にて分別排出できなかった建設混合廃棄物はより選別・リサイクルが難しい重量系の廃棄物へと性状が変化しているのが特徴です。

リサイクル率は、上記の 3 拠点工場の取扱廃棄物全体量に対して、リサイクルした合計量を重量比で算出する方法としました。その結果、

- 2007 年度実績は　82.5%
- 2008 年度実績は　83.4%

となっております（注：土木系の地中障害物など、選別が困難ですべて埋立になるような特定の産業廃棄物の一部は、上記の集計の対象から除いております）。昨年度と比べ若干の向上をしているものの、目標値である「2012 年までにリサイクル率 90%以上」の達成を目指し更なる改善・努力を行っております。

（※詳しくは株式会社リサイクル・ピアのホームページ：http://www.r-p.co.jp/ をご参照下さい。）

＜参考資料＞ 7　リサイクル･ピアホームページ

⑤　廃石膏ボードについてのリサイクル推進

廃石膏ボードは、建設廃棄物のうち、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設汚泥、建設発生木材に次ぐ、主要排出品目であります。製品としての石膏ボードは、防耐火、遮音、断熱性に優れた建築資材として幅広く利用されてきたこともあり、今後、解体期を迎える高度成長期の建築物から大幅な廃棄量の増加が見込まれています。

そのような中で、当社グループは、いち早く、リサイクル施設の整備を図ってまいりました。2003 年 11 月には、株式会社ギプロ※八潮リサイクルセンターを、埼玉県八潮市に稼働させました。当センターは既に創業 7 年目を迎え、解体系廃石膏ボードを含む国内最大級の単品再資源化工場として安定稼働を果たしております。昨年度（2008 年度）についても、年間 3 万tを超える再資源化の実績を残しております。

（※詳しくは株式会社ギプロのホームページ：http://www.gypro.co.jp/ をご参照下さい。）

＜参考資料＞ 8　ギプロホームページ

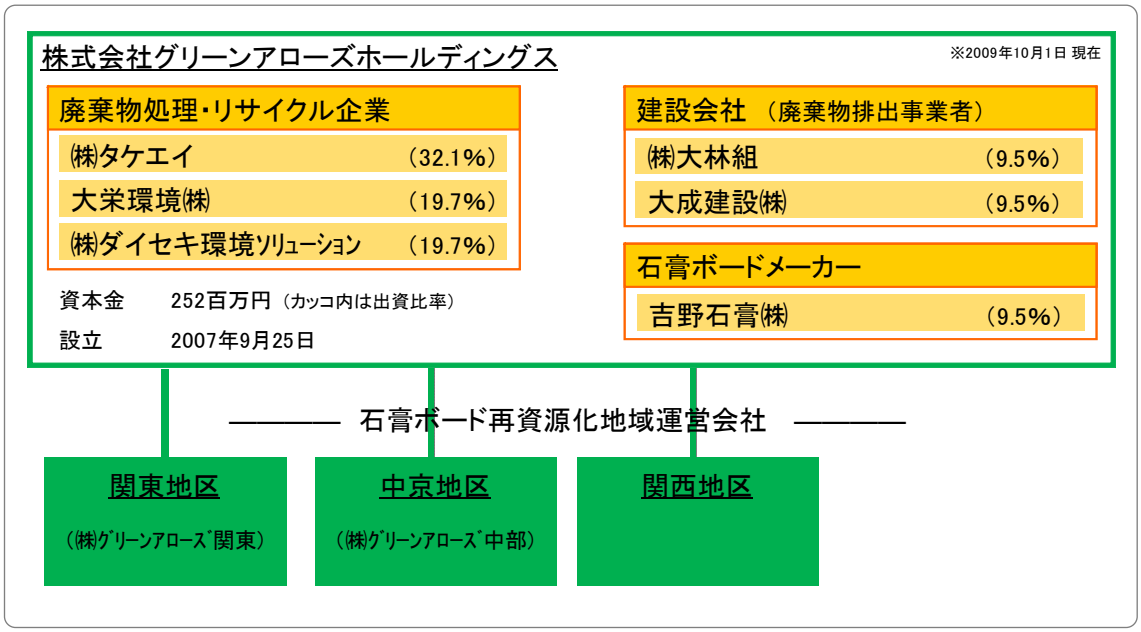
2. 循環型社会形成に向けた取組について

① 事業スキームの構築による取組

2000 年制定の「循環型社会形成推進基本法」の中では、文字通り「資源循環型社会への形成」が謳われております。当社グループは、廃棄物の資源循環のためには、関係者による役割分担が重要であるとの認識から、排出者、処理業者、再資源化品の利用者による事業スキーム構築に努めてまいりました。

前項でも取り上げさせて頂いた石膏ボードリサイクルのための協業スキームでもある株式会社ギプロは、その全国展開を図る株式会社グリーンアローズホールディングス（2007 年 9 月設立）、その地域事業会社としての株式会社グリーンアローズ関東（2008 年６月設立）等への展開を図っているところであります。

＜参考資料＞ 9　グリーンアローズホールディングス事業スキーム



② 単品専門の再資源化工場による取組

当社グループは、単品専門の再資源化工場を充実させることで、特定品目についてのリサイクルについての効率性の向上、扱い量の増大を図ってまいりました。現状においては、先述の石膏ボード再資源化工場の株式会社ギプロハ潮リサイクルセンター、2008 年 5 月にM&Aで株式取得しました再生骨材、再生砕石の製造工場の株式会社池田商店※横浜工場の２拠点がございます。

2008 年度における再資源化品の搬出実績は、２拠点合わせて、31,133ｔ（前年度）から 108,023ｔ（前年度比 246%増）と、大幅に増加することができました。当年度については、M&A案件による寄与という特殊要因が大きかったと言えますが、今後について、更に上積みの目標達成を目指してまいります。

（※詳しくは
株式会社池田商店のホームページ：http://www.takeei.co.jp/ikeda/ をご参照下さい。）

＜参考資料＞ 10　池田商店ホームページ

3. 低炭素化社会に向けた取組について

① 収集運搬効率の向上を目的とする実施内容

当社は収集運搬の車両を 300 台近く保有しており、事業活動に占めるCO_2排出量の割合が高くなっております。このためCO_2排出削減に努め、収集運搬効率の向上を実現することで、お客様により良い収集運搬サービスの提供を目指しております。

当社では、

- 適正運転の実施において、乗務員ハンドブック等を用いた社内教育
- 急発進・急加速の抑制によるエコドライブ運転の実施や、アイドリングストップの徹底
- 運行管理システムによる低燃費運転の管理

を行い、収集運搬効率の向上を図っております。

各取組を実施したことにより、1 件あたりのCO_2排出量は年間 16%の削減効果を得ることができました。今後も更なるCO_2及びコストの削減を検討してまいります。

＜参考資料＞ 11　回収現場1件あたりの収集運搬車両による CO_2排出量の変化

	(年度)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
CO2排出量(kg)	2007	33	36	33	33	34	33	31	31	32	33	33	32	33
	2008	34	30	31	31	28	27	25	24	25	25	27	27	27
CO2削減率		+2%	−16%	−6%	−6%	−17%	−19%	−20%	−22%	−21%	−23%	−20%	−17%	−16%

② CO_2削減の為の実施内容

収集運搬、中間処理、最終処分において、低燃費運転の実施、処理設備の稼動調整等を行った結果、当社の全事業活動から排出されるCO_2排出量は、2007年度対比で 5%削減できました。また、モーダルシフトやバイオマス発電施設への優先的な燃料チップ搬出による、CO_2排出量の削減に取り組んでいます。

＜参考資料＞ 12　廃棄物処理量1tあたりの当社全事業活動によるCO_2排出量の変化

	(年度)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
CO_2排出量(t)	2007	1,345	1,247	1,315	1,266	1,371	1,398	1,381	1,384	1,466	1,244	1,458	1,492	16,367	1,364
	2008	1,354	1,152	1,203	1,411	1,296	1,364	1,376	1,264	1,331	1,175	1,303	1,347	15,574	1,298
処理量(t)	2007	28,760	24,241	29,638	25,036	27,283	31,661	31,392	31,896	33,941	25,779	32,612	33,049	355,287	29,607
	2008	31,763	25,549	28,070	32,074	32,806	36,853	41,383	42,539	40,487	30,915	38,320	37,849	418,608	34,884
1tあたりCO_2(kg)	2007	42	49	47	39	42	38	33	33	36	40	38	39	39	
	2008	43	45	43	44	39	37	33	30	33	38	34	36	37	
1tあたりCO_2削減率		+1%	−8%	−9%	+11%	−5%	−2%	−0%	−9%	−9%	−6%	−11%	−10%	−5%	

＜参考資料＞ 13　モーダルシフト化による CO_2排出量の比較

廃棄物を鉄道輸送及び海上輸送で搬出することは、当社としての CO_2排出量を削減したことには直接関係しませんが、トラック輸送（仮定）と比較することで、より CO_2排出量の少ない運送手段を利用できたと考えます。

＜　取組事例　＞

搬出品目:　　廃プラ、可燃物
搬出先:　　川崎 RC から中国地方・九州地方の３施設への搬出
輸送方法:　　①トラック～鉄道（JR 貨物）～トラック
　　②トラック～海上輸送（フェリー便）～トラック

＜　前提条件および算出方法　＞

搬出先の施設ごとに搬出した廃棄物量に応じて輸送方法ごとの CO_2排出量（実績）を算出
これらの廃棄物をトラック輸送で目的地まで運搬した場合を想定し CO_2排出量（仮定）を算出
仮定ー実績　＝　モーダルシフトによる CO_2排出量の比較

輸送量当たりの CO_2排出量は、「国土交通省 運輸部門の地球温暖化対策について」を利用
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000006.html

(2007年度)	トラック	鉄道	船舶
輸送量当たりのCO_2排出量（g-CO_2／トンキロ）	145	22	38

輸送距離は、輸送方法①・②は実輸送距離、仮定のトラック輸送はトラックによる輸送想定距離
（よって、①・②と、仮定の目的地までの距離は一致しません。）

	鉄道輸送（実績）				海上輸送（実績）				トラック輸送
(km)	トラック	鉄道	トラック	合計	トラック	船便	トラック	合計	（仮定）
施設 A	10	1,059	10	1,079	36	1,016	72	1,124	959
施設 B	10	1,109	25	1,144	36	1,016	2	1,054	1,033
施設 C	10	1,059	25	1,094	10	1,059	71	1,140	962

廃棄物搬出量（2008 年度実績）

（t／年）	鉄道輸送	海上輸送	合計
施設 A	346	2,411	2,756
施設 B	0	3,549	3,549
施設 C	0	56	56
合計	346	6,015	6,361

＜　試算結果：　モーダルシフトによる CO_2排出量の比較　＞

(t-CO_2)	2008年度実績（ア）	仮定（トラック輸送）（イ）	CO2排出量比較（アーイ）
施設 A	139.7	383.3	**-243.6**
施設 B	156.7	531.7	**-375.0**
施設 C	2.9	7.8	**-4.9**
合計	299.3	922.8	**-623.5**

∴ 以上により、実際に搬出した 6,361 t の廃棄物をすべてトラック輸送（仮定）で運搬することに比べ、モーダルシフト（鉄道輸送・海上輸送）を行った結果、CO_2排出量が 623.5 t 少ない輸送手段を活用することができました。

＜参考資料＞ 14　バイオマス発電利用先への搬出による CO_2排出削減効果

バイオマス発電利用先へ搬出することは、当社としての CO_2排出量を削減することには直接関係しませんが、バイオマス発電を行うことにより、間接的に CO_2排出量の削減になっていると考えます。

＜　前提条件および算出方法　＞

当社がバイオマス発電利用先へチップを搬出した量（重量）から発電できる電力量を算出
その電力量を火力発電等で発電する場合に排出する CO_2が、削減できた CO_2排出量に相当すると考える

チップ搬出実績（ｔ）　×　発電係数（kWh/ｔ）　＝　バイオマス発電による発電量（kWh）
発電量（kWh）　×　CO_2排出係数（ｔ-CO_2/kWh）　＝　CO_2削減相当量（ｔ-CO_2）

廃棄物搬出量（2008 年度実績）

	搬出実績 (t)	発電係数 (kWh/t)	発電量 (千kWh)	CO_2排出係数 (t-CO_2/kWh)	CO_2削減量 (t-CO_2)
バイオマス発電利用先 A	38,090	1,337	50,927	0.000555	28,264
バイオマス発電利用先 B	761	780	593	0.000555	329
合計	38,851		51,520		28,594

バイオマス発電に伴う CO_2発生量は、カーボンニュートラルから発生量０とみなすため、
電力消費量の CO_2換算係数を使用
（環境省の温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルⅡ-22 ページ　(3) 燃料の種類、単位発熱量及び排出係数）

＜　試算結果：　バイオマス発電利用による CO_2排出削減効果　＞

∴ 以上により、バイオマス発電利用先へのチップ搬出による（間接的な）CO_2排出削減効果は、28,594ｔ（2008 年度）に相当する量となりました。

③ オフィス内の燃料・電気使用量削減に向けた実施内容

地球温暖化対策の一環として提唱している「クールビズ」の趣旨に賛同し、『クールビズ運動』を実施いたしました。電気使用量、燃料使用量を把握し、今後も使用量削減に向けた取組を実施していきます。

＜参考資料＞ 15　2008 年度　本社オフィスにおける燃料・電気使用量

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
電気使用量（kwh）	オフィスビル	26,263	24,261	27,259	38,112	31,629	19,491	19,470	16,705	17,014	17,259	16,520	17,924	271,904	22,659
燃料使用量（ℓ）	乗用車（レンタカー含む）	9,822	8,496	8,173	5,846	4,610	5,932	6,636	5,834	5,949	5,783	5,813	5,683	78,577	6,548

当社は、「低炭素社会」実現に向け、「エコ・ファーストの約束」以外にも、「カーボンオフセットのメニューの提供」や、「チーム・マイナス6%」運動への参画など、CO_2排出量の削減に、積極的に取り組んでおります。

カーボン オフセット実施報告

弊社では低炭素社会づくりへの貢献を目的とし、産業廃棄物を運搬した際に発生する CO_2 のオフセットサービスをお客様に提供しています。本オフセットの趣旨に賛同いただき、ご契約及び費用のご負担をいただいたお客様の発生 CO_2 について、下記の通りオフセット手続きが完了いたしましたのでご報告いたします。

記

〔対象期間〕　平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

〔オフセットの対象となる廃棄物収集運搬〕
弊社と「カーボンオフセット付廃棄物収集運搬」のご契約をいただいたお客様の運搬

〔オフセット完了日〕　平成 21 年 4 月 30 日

〔CO_2 オフセット量〕　3 t

（実施明細）

お客様名	オフセット量
○○○　株式会社　様	2197.1 kg

※　日本国政府償却口座への移転最低単位は 1 t のため、切り上げて　3t オフセットいたしました

〔オフセット使用したクレジット（排出権）の種別〕
CER　（国連に認証されたクレジット）
〔オフセットしたクレジット（排出権）特定番号〕
BR-000-000-013-051-627　～　BR-000-000-013-051-629
〔本件クレジットのオフセットの方法〕
弊社より三井住友銀行に信託されたクレジット（排出権）の日本国政府償却口座への移転による

このオフセットされた CO_2 は京都議定書の削減目標（マイナス 6%）の達成に寄与します。

本オフセットサービスのしくみは、株式会社大成出版社発行「建設リサイクル　2009 年春号」に掲載された弊社の記事をご参照ください。
http://www.takeei.co.jp/pdf/20090601.pdf
オフセット実施 プレスリリース
http://ir.takeei.co.jp/html/pdf/prs20080826.pdf

以上

平成 21 年 6 月 1 日

東京都港区芝公園 2-4-1 ﾀﾞｳﾞｨﾝﾁ芝ﾊﾟｰｸ A-10F
株式会社　タケエイ
代表取締役　三本　守

※ 本件に関するお問い合わせ先　経営企画部　担当小林　TEL. 03-6361-6820

許可番号一覧

株式会社タケエイ
平成21年10月更新

◆産業廃棄物処理業許可番号一覧表

都道府県・市名	業区分	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	ガラスくず及び陶磁器くず	鉱さい	がれき類
東京都	収集運搬	第13000003455号	平成18年10月25日	平成23年10月24日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
千葉県	収集運搬	第01200003455号	平成19年3月6日	平成24年3月5日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
	処分（中間処理）	第01240003455号	平成19年3月6日	平成24年3月5日						●	●	●	●			●	●		●
	処分（最終処分）									●					●	●	●		●
千葉市	収集運搬	第5500003455号	平成19年2月10日	平成24年2月9日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
	処分（最終処分）	第5530003455号	平成20年10月21日	平成25年9月9日						●					●	●	●		●
船橋市	収集運搬	第10400003455号	平成19年3月6日	平成24年3月5日		●	●			●	●	●	●	●	●	●	●		●
柏市	収集運搬	第11100003455号	平成19年3月6日	平成24年3月5日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
埼玉県	収集運搬	第01107003455号	平成18年10月26日	平成23年10月3日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●
さいたま市	収集運搬	第10100003455号	平成18年10月11日	平成23年10月3日	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●
川越市	収集運搬	第10300003455号	平成18年10月4日	平成23年10月3日	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●
神奈川県	収集運搬	第01403003455号	平成18年12月1日	平成23年11月30日	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
横浜市	収集運搬	第05600003455号	平成18年8月1日	平成23年7月31日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
川崎市	収集運搬	第05710003455号	平成19年1月1日	平成23年12月31日	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	●		◎	◎	●	◎
	処分（中間処理）	第05720003455号	平成19年1月1日	平成23年12月31日						●	●	●	●			●	●		●
横須賀市	収集運搬	第05801003455号	平成18年12月26日	平成23年12月25日	●		●			●	●	●	●			●	●	●	●
相模原市	収集運搬	第09800003455号	平成18年12月1日	平成23年11月30日	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
茨城県	収集運搬	第00801003455号	平成19年5月8日	平成24年5月7日	●	●	●			●	●	●	●			●	●		●
静岡県	収集運搬	第02201003455号	平成20年12月21日	平成25年12月20日						●	●	●	●			●	●		●
静岡市	収集運搬	第06201003455号	平成17年2月3日	平成22年2月2日						●	●	●	●			●	●		●
浜松市	収集運搬	第06303003455号	平成20年12月21日	平成25年12月20日						●	●	●	●			●	●		●
豊田市	収集運搬	第09000003455号	平成17年10月14日	平成22年10月13日						●							●		●
栃木県	収集運搬	第0900003455号	平成17年12月19日	平成22年12月18日					●	●	●	●	●			●	●		●
宇都宮市	収集運搬	第08400003455号	平成17年12月19日	平成22年12月18日					●	●	●	●	●			●	●		●
山梨県	収集運搬	第01900003455号	平成3年2月1日	平成23年1月31日						●	●	●	●		●	●	●		●
長野県	収集運搬	第2009003455号	平成18年2月7日	平成23年2月6日						●	●	●	●		●	●	●		●
長野市	収集運搬	第9503003455号	平成18年2月7日	平成23年2月6日						●	●	●	●		●	●	●		●
群馬県	収集運搬	第01000003455号	平成18年2月27日	平成23年2月26日					●	●	●	●	●		●	●	●		●
前橋市	収集運搬	第01000003455号	平成18年2月27日	平成23年2月26日					●	●	●	●	●		●	●	●		●
福島県	収集運搬	第0707003455号	平成18年3月23日	平成23年3月5日						●	●	●	●		●	●	●		●
郡山市	収集運搬	第08703003455号	平成18年3月6日	平成23年3月5日						●	●	●	●		●	●	●		●
いわき市	収集運搬	第9400003455号	平成18年3月6日	平成23年3月5日						●	●	●	●		●	●	●		●
宮城県	収集運搬	第0400003455号	平成18年7月17日	平成23年7月16日						●	●	●	●			●	●		●
新潟県	収集運搬	第01509003455号	平成17年10月27日	平成22年10月26日						●	●	●	●			●	●		●
新潟市	収集運搬	第05902003455号	平成17年11月20日	平成22年11月19日						●	●	●	●			●	●		●
三重県	収集運搬	第02400003455号	平成20年12月24日	平成25年9月7日	●					●	●	●				●	●		●
奈良県	収集運搬	第02900003455号	平成18年10月5日	平成23年10月4日						●	●	●	●			●	●		●

許可番号一覧

株式会社タケエイ

平成21年10月**更新**

◆特管物処理業許可番号一覧表

都道府県 ・市名	業区分	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	感染性産業廃棄物	廃石綿等
東 京 都	収集運搬	第1354003455号	平成20年8月6日	平成25年8月5日		●
千 葉 県	収集運搬	第01250003455号	平成20年7月23日	平成25年7月22日		●
千 葉 市	収集運搬	第5550003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日		●
船 橋 市	収集運搬	第10450003455号	平成20年7月23日	平成25年7月22日		●
柏 市	収集運搬	第11150003455号	平成20年7月23日	平成25年7月22日		●
埼 玉 県	収集運搬	第01157003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日		●
さいたま市	収集運搬	第10150003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日		●
川 越 市	収集運搬	第10350003455号	平成20年7月3日	平成25年6月30日		●
神奈川県	収集運搬	第01453003455号	平成20年6月5日	平成25年6月4日		●
横 浜 市	収集運搬	第05650003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日	●	●
川 崎 市	収集運搬	第05760003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日	●	◎
横須賀市	収集運搬	第05851003455号	平成20年6月1日	平成25年5月31日	●	●
相模原市	収集運搬	第09850003455号	平成20年6月5日	平成25年6月4日		●
茨 城 県	収集運搬	第00851003455号	平成19年3月23日	平成24年3月22日		●
奈 良 県	収集運搬	第02950003455号	平成18年10月5日	平成23年10月4日		●
三 重 県	収集運搬	第2450003455号	平成18年12月25日	平成23年12月24日		●
愛 知 県	収集運搬	第02350003455号	平成19年3月27日	平成24年3月26日		●

許可番号一覧

株式会社タケエイ
平成21年10月**更新**

◆一般廃棄物処理業許可番号一覧表

都道府県・市名	業区分	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	取扱い廃棄物の種類	備考
千 葉 市	運搬 （保管・積替えを除く）	第116号	平成21年4月1日	平成23年3月31日	特定家庭用機器 再商品化法対象物	運搬のみ
四街道市	収集運搬	第8号	平成21年6月1日	平成23年5月31日	一般廃棄物 （し尿・浄化槽汚泥を除く）	
	中間処理	第25号	平成19年11月1日	平成21年10月31日 （更新手続き中）	一般廃棄物 （し尿・浄化槽汚でいを除く）	
東京23区	収集運搬 （保管・積替えを除く）	第1199号	平成21年8月1日	平成23年7月31日	普通ごみ	23区全て別許可
横 浜 市	収集運搬	第1068号	平成20年4月1日	平成22年3月31日	一般廃棄物 （有害物質を含むもの並びに廃PCB及びPCB汚染物を除く）	
川 崎 市	収集運搬	第0117号	平成20年10月1日	平成22年9月30日	事業系一般廃棄物	
平 塚 市	収集運搬	第2-35号	平成19年10月12日	平成21年10月11日 （更新手続き中）	普通ごみ	事業の範囲は「学校法人 平塚学園」のみ

■資格取得状況

株式会社タケエイ
平成21年4月末現在

資格名	人数
■廃棄物処理に関する資格等	
中間処理施設技術管理者	6
破砕・リサイクル施設技術管理者	11
産業廃棄物焼却施設技術管理者	2
最終処分場技術管理者	3
特別管理産業廃棄物管理責任者	14
■業務に関する資格等	
第一種衛生管理者	17
第二種衛生管理者	2
公害防止管理者(大気1種)	1
公害防止管理者(水質1種)	1
公害防止管理者(騒音)	1
公害防止管理者(一般粉じん)	1
公害防止管理者(ダイオキシン)	2
公害防止管理者(東京都認定)	1
環境計量士(濃度)	2
エネルギー管理員	5
1級土木施工管理技士	2
監理技術者	2
低圧電気作業者	12
危険物取扱者(乙種第四類)	9
防火管理者(甲種)	19
主任計量者	5
石綿取扱作業主任者	6
石綿取扱作業従事者	15
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	7
コンクリート造の工作物の解体等作業主任者	1
ガス溶接技能者	32
アーク溶接技能者	25
■車輌/重機に関する資格等	
運行管理者	8
車両系建設機械運転技能講習(整地・運搬・積込及び掘削用、機体質量3t以上)	85
車両系建設機械運転技能講習(解体用、機体質量3t以上)	14
車両系建設機械運転技能講習(基礎工事)	1
フォークリフト運転技能講習(最大荷重1t以上)	81
床上操作式クレーン運転士	2
小型移動式クレーン運転士	107
移動式クレーン運転士	1
玉掛け作業者	108
大型自動車運転免許	100
けん引自動車免許	18
運転適性の検査・指導者	2
交通労働災害防止担当管理者	1
■環境マネジメントシステムに関する資格等	
ISO14000審査員	1
ISO14001内部監査員	39
ISO9000審査員	1
ISO9001内部監査員	55
■その他	
環境社会検定(ECO検定)	16

■産廃関連講習会の受講状況

株式会社タケエイ
平成21年4月末現在

実施者 および 名称	修了日	修了者数	修了番号
㈶日本産業廃棄物処理振興センター			
特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会（新規）			
『収集・運搬課程』	2007年10月19日	1名	第307163034号
産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会（新規）			
『収集・運搬課程』	2004年10月19日	1名	第104069080号
	2008年5月23日	1名	第108005085号
	2009年5月22日	1名	第109005042号
『処分課程』	2004年10月21日	1名	第204134095号
	2008年5月23日	1名	第208119082号
	2009年5月22日	1名	第209116041号
産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業許可申請に関する講習会（更新）			
『収集・運搬課程』	2006年9月7日	1名	第506053025号
	2007年9月20日	1名	第507061043号
『処分課程』	2006年9月8日	1名	第606121025号
	2007年9月21日	1名	第607126042号
※ 以下は任意			
㈳全国産業廃棄物連合会			
雇用高度化事業モデル研修会	2005年2月3日～4日、2月7日～8日	2名	
	2005年11月17日～18日	1名	
アスベスト廃棄物等の適正処理の説明会	2005年8月29日	9名	
廃棄物処理法施行規則に伴う各種ガイドライン等説明会	2006年7月24日	7名	
建設廃棄物適正処理実施研修会	2006年2月28日	5名	
	2007年3月8日	1名	
最終処分場維持管理技術研修会	2008年5月28日～30日	1名	
産業廃棄物処理業従事者能力アップセミナー(営業コース)	2008年9月4日～5日	4名	
産業廃棄物処理業従事者能力アップセミナー(現業管理コース)	2008年9月18日～19日	1名	
㈳全国産業廃棄物連合会関東地域協議会			
産業廃棄物処理業優良化について	2004年12月9日	5名	
産業廃棄物最終処分場維持管理説明会	2008年2月6日	2名	
関東建設廃棄物協会			
石綿取扱い作業従事者特別教育	2005年8月28日	3名	
産業廃棄物処理に係わる基礎講習会	2006年4月27日	3名	
	2007年4月27日	5名	
	2008年4月22日	1名	
	2009年4月24日	10名	
㈳千葉県産業廃棄物協会			
平成17年度産業廃棄物処理業者セミナー	2005年9月21日、10月18日	15名	
平成18年度産業廃棄物処理業者セミナー	2006年9月5日、10月26日	24名	
欠格要件等に関する研修会	2006年2月8日	2名	
千葉県・㈶千葉県産業振興センター			
バイオマス利活用推進シンポジウム	2008年8月7日	3名	
東京都・㈳東京都産業廃棄物協会			
産業廃棄物処理業者講習会	2004年12月6日	1名	
	2008年5月26日	4名	
アスベスト指導指針改正に係る説明会	2005年8月22日	10名	
特別管理産業廃棄物の収集・運搬及び処分課程（更新）	2007年9月20日、21日	1名	
特別管理産業廃棄物の収集・運搬課程（新規）	2007年10月19日	1名	

株式会社タケエイ
〒105-0011　東京都港区芝公園 2-4-1 ダヴィンチ芝パーク A-10 階
電話　03-6361-6830（代表）　FAX.　03-6361-6835
http://www.takeei.co.jp/

表紙の写真：タケエイエコパークゴルフ大木戸　（2009 年 9 月オープン）

全国でも珍しい、自社安定型最終処分場跡地を有効利用したゴルフ風のスポーツ施設です。小さなお子さまからご年配の方まで、幅広い年代の人々に手軽にお楽しみいただけます。地域の皆さまのコミュニケーションや健康づくりの場の提供を目指しています。

＜タケエイエコパークゴルフ大木戸　概要＞
千葉県千葉市緑区大木戸町 1172-3　（大駐車場完備）
電話　043-205-2760
営業時間　8：00～17：00 （年中無休）